

平成 23 年度第 3 回テンミリオンハウス事業採択・評価委員会議事録

■日 時：平成 23 年 10 月 25 日（火）18：30～21：15

■場 所：市役所西棟 4 階 412 会議室

■出席委員：7 名（欠席 1 名）

■事務局：高齢者支援課、市民社会福祉協議会

1 開会

2 配付資料確認

事務局より事前配付資料の説明

3 議事

（1）テンミリオンハウスそ～らの家応募団体ヒアリング

【グループ萌黄】

（プレゼンテーション）

昨年 6 月 19 日、テンミリオンハウスそ～らの家はお陰様で 10 周年を迎えることができました。市長をはじめ、市の関係者、利用者、ボランティアの方々、地域の方々をお招きし、102 名の参加をいただきました。また、10 周年記念誌も発行することができました。

10 周年を迎えるにあたり、10 周年記念事業を行ないました。地域の三味線の先生をしている方がお弟子さん達とお祝いに駆けつけてくれました。周りの紅白の幕は第三小学校からお借りすることができました。

月曜日から金曜日まで様々なプログラムが組まれており、タオル体操は人気の一つです。タオルを利用し、ヨガを取り入れた体操です。椅子に腰かけ、無理なく先生の指導の下に毎週金曜日張り切ってやっています。

コーラスは水曜日にお二人の先生の指導の下実施しており、楽しいコーラスが人を呼び、現在水曜日は 20 名以上の方が来所されます。12 月のクリスマス会にはそ～ら合唱団としてデビューいたしました。

昼食の献立には、野菜を多く利用し、主婦の底力で毎回工夫されたお昼を皆さまに提供しています。非常に評判良く、地域の方々やご夫妻で食べに来られる方も非常に増えています。

ラッピング講座は、細かい作業を伴うため、スタッフも一緒になって実施しています。季節に合わせて作品を作っています。

籐編は月1回実施しており、利用者に大変人気のあるプログラムとなっています。作品は自分で希望して大きなものから小物まで作り、果物を入れたいということでザルを作る方もおりました。

書道は木曜日の午後に実施しており、和歌・俳句をお手本に書いています。女学校時代を思い出すと伸び伸び書かれる方もおられますし、1年前に初めて書いたという方も立派な字を書けるようになり、それぞれ楽しんで参加されています。

絵手紙はハガキの中で大きく思いっきり描くことが難しいので、「下手でも良い」と皆さん書いていますが、上達度は素晴らしいものがあります。できるだけ季節のものを書いていただくよう、スタッフも工夫しています。

ちぎり絵は先生を中心に、現在はお雛様を制作しています。スタッフも2人が毎回加わり、皆さまのお手伝いをさせていただいております。

折り紙は週1回先生の指導の下、季節のものや、干支を毎年作っています。他にも、バラの花を折りたい、怪獣を折りたい、アンパンマンを折りたいというご希望に応じて作っています。

そ~らの家の一大イベントである「ミニ祭り」は、1週間前から準備に追われ大変ですが、利用者・家族・地域に非常に根付いてきました。朝採りの野菜を使った昼食は長蛇の列ができるほどです。地域福祉として吉祥寺南町5丁目の方々に、フリーマーケットに参加いただいております。ミニ祭りの時期は、ボランティアの方々が植えてくださった菊の花が満開に咲く時期です。毎年植えてくださるので感謝しています。

クリスマス会は、中学校の職場体験のご縁から、去年は藤村学園の生徒12名によるハンドベルとマジックをご披露いただきました。今年も藤村学園の生徒がクリスマス会に来る予定です。

ひな祭りは、スタッフ一同がお雛様になり、利用者の笑いを誘っています。自分達で衣装を紙で作り、利用者の皆さんと一緒にひな祭りの歌を歌いました。また、このようなイベントの機会を利用して、武蔵野警察の方に来ていただき、高齢者の交通安全、防犯、振り込め詐欺についてなどお話しいただいております。

唯一土曜日に月1回行っているフラワーアレンジメントは、若い方の参加が多く、季節の花々を使いレッスンしています。

コーヒー・紅茶はいつでも飲めるよう準備しており、散歩ついでにふらっとお寄りになる方や学生などは、まるで喫茶店にいるかのようにゆっくりとした時間を過ごしていきます。

年1回実施している1日遠足は、利用者・家族がとても楽しみにしているイベントです。小金井公園、神代植物公園、近くの公園に出かけています。これも市の職員やボランティアに支えられてできる事業だと思います。

地域向けの講座として認知症講座や熱中症対策、口腔ケアの講座等を実施しています。また、インフルエンザの時期になりますと、医師、看護師に来ていただき、予防接種を利用者・スタッフ・近所の方に向けて実施しています。

今後のそ～らの家は、今まで土曜日の開所は難しかったのですが、若いスタッフを迎えることで土曜日も開所しようということになりました。

(質疑応答)

【委員】 10年間運営してきた実績をお話しいただきましたが、10年一区切りという中で、新たに運営を希望される抱負を伺いたと思います。

【グループ萌黄】 10年ひと昔とよく言いますが、我々にとっての10年はあっという間の10年でした。そのような中、現在利用されている利用者の皆さんが非常に不安がっている状況です。地域の中で実施し、若い力を借り、今後も地域に開かれ「いつでも来られる憩いの場」としてそ～らの家を存続させていきたいと思っています。平均年齢が現在よりも20歳若いスタッフ構成になり、加えて今までの経験あるスタッフも一緒に参加して運営する体制をとることができますので、心強く思っています。

【委員】 これまで活動されてきた中での課題とそれに対する今後の取組みについてお伺いしたいと思います。

【グループ萌黄】 今まで土曜日の開所に踏み込みたかったのですが、難しい状況でした。しかし、この度12名の若いスタッフの参加により、「土曜日を開所しよう」という力強い言葉をいただき、土曜日を開所することとなりました。これによって今まで実施できなかった囲碁や将棋、健康麻雀を実施し、月2回世代間交流を実施したいと考えています。フラワーアレンジメントは今まで通り土曜日に実施したいと考えています。

また、お風呂の利用が1つの課題と認識しています。そ～らの家には立派なお風呂がありますが、土曜日であればゆったり入っていただけるのではないかと思います。季節によってヨモギの湯や菖蒲湯も提供できるのではないかと思います。

います。平日は厨房の関係から午後2時過ぎからでないと入れない状況にあり、そうすると1人の利用が限度と思いますので、土曜日であればもっと入っていただけると考えています。

【委員】 世代間交流というお話がありましたが、具体的にどのようなことをお考えでしょうか。

【グループ萌黄】 初めてのことなので、まだ新しいスタッフと詳細を詰めることができおりませんが、土曜日ですと親子連れの方が隣の防災広場へ多く遊びに来られるので、そういう方達を含めてお声かけをして、そ~らの家の中で何ができるかということを経験したいと思っています。

【委員】 緊急ショートステイ事業の実施と書かれていますが、これは以前実施していなかったと思いますので、今回新たに実施を考えているのでしょうか。

【グループ萌黄】 10年間運営してきた中で、あまり緊急のショートステイはこれまでありませんでした。当初は冠婚葬祭でご家族の方が時間通りに帰れない場合、利用者に来ていただき共に過ごせればと考えていました。しかし、数としては少なかったということがあります。その辺りをもう一度考え直すことができるのではないかと思います。

【委員】 時間を見ますと午前8時から午後10時までの実施なので、スタッフに負担がかかるのではないかと思いますので、いかがでしょうか。

【グループ萌黄】 1日入ったスタッフがそのまま午後10時まで入るのではなく、夕方から交代のスタッフが2人入るという体制で以前から行っていました。

【委員】 要望がどれほどになるかということは、これから実施してみないと分からないということでしょうか。

【グループ萌黄】 はい。PRが不足している部分もあると思いますので、もっと知っていただくよう努力します。

【委員】 テンミリオンハウスでの緊急ショートステイの実施は、これまで関三倶楽部の1ヶ所しかなかったもので、これから実施しているということが分かると、ショートステイを利用したいとされる方が増える可能性があります。その辺りの対応をしっかりといただければと思います。

【グループ萌黄】 まだ不足している面はあると思いますので、努力していきたいと思っています。

【委員】 今回新たに加わった若いスタッフをどのように取り込んだのでしょうか。また、土曜日の開所により日数が増えるため、利用料収入が増えること

になるかと思いますが、平成 23 年度の事業計画と比べますと、利用料収入が減っています。更に、人件費も増えると予測しましたが、平成 23 年度の事業計画書と比べそれほど増えていません。この辺りについてのご説明をお願いします。

【グループ萌黄】 若い方への取組みについてですが、そ～らの家の近くには小学校・中学校・高校にお子さんが通っていらっしゃるお母様がたくさんおり、公募を聞いてお手伝いしたいと申し出ていただいたことによるもので、その輪が非常に広がってきたことにあります。この提案書を提出した後も、一緒に活動したいと申し出てくださっている方が、まだ4、5名いらっしゃる状況です。よって、特別何かをしたということはありません。

土曜日についてですが、半日の開所であり、昼食もサンドイッチやおむすびといった軽食を考えているので、スタッフは2人体制で良いと考えています。また、今まで事務は午前8時から午後5時まで入っており、厨房は午前9時から午後2時までが1人、午前9時から午後5時までが2人だったのですが、これまでの状況を踏まえ午前9時から午後2時を2人、午前9時から午後5時を1人に変更した関係から、人件費も変化してきたものと思います。

【委員】 先ほどショートステイのお話がありましたが、利用者が来られた際の料金設定やスタッフの人件費について、どのように設定されているのかお伺いしたいと思います。

【グループ萌黄】 午後5時までは2人のスタッフがおりますが、その後の午後10時までに入るスタッフについては、時給900円の割合をそのまま適用する予定です。夜間対応ということもあり、時給900円の夜間対応時間について、スタッフ2名分を利用者に負担いただく予定です。

【委員長】 スタッフの賃金が時給900円に設定されているほか、チーフ手当が設定されていますが、チーフとはどのような方を対象にしているのでしょうか。また、1日平均利用者数が10人となっておりますが、昨年度の利用実績では17.66人でした。この数字を落とされた理由についてお伺いしたいと思います。

【グループ萌黄】 利用者数10人で楽をしようということではなく、10年間の運営の中、亡くなられた方や施設へ入所された方も非常に多くなってきており、新しいスタッフも入ったばかりの体制の中、今まで通りの運営状況になるかどうか分かりませんので、最初の目安として少し低めに設定しました。

チーフ手当についてですが、チーフになる方は、昼食の材料を前日のお昼過

ぎに翌日の利用者人数を確認した上で仕入れています。その時間帯は1時間では済まないのですが、その作業時間を1時間としてチーフ手当を支給しています。

【委員長】 そ～らの家は広いスペースがありますので、利用者増に力を入れていただきたいと思います。

また、土曜日を開所することについて、グループ萌黄の申し合わせ事項には月曜日から金曜日のことしか書かれていませんので、もう一度この申し合わせ事項を整理していただきたいと思います。

【グループ萌黄】 新しいメンバーに切り替わった段階で、申し合わせ事項や会則を見直していく必要があると考えています。

【委員】 緊急ショートステイ事業を予定されていますが、緊急ショートステイを実施するのであれば、一定の専門性や資格が重要になるかと思います。団体スタッフ予定者の名簿を見ますと、認知症サポーター養成講座を受けられている方は何名かおられますが、ほかは介護福祉士が1名という状況です。緊急ショートステイを実施する上での専門性に疑問が残るのですが、このことについてご説明願います。

【グループ萌黄】 認知症サポーター養成講座は、今年度中に全員受講する予定です。専門家として1名のスタッフがおられますが、この方は3月までご自身で事業所を開所していましたが、ご都合により事業所を閉め、今回そ～らの家運営にご協力いただくことになった方です。また、介護ヘルパー2級の資格は施設長も有しています。徐々にスタッフの中で、必要に応じて資格を取得していただければ良いと考えています。

【委員】 例えば緊急ショートステイの利用があった場合、介護福祉士の資格を有しているスタッフの方が率先して入る体制を考えているのか、それとも日常の中で入っているスタッフの方で対応するというお考えなのかということについてお伺いしたいと思います。

【グループ萌黄】 1ヶ月のシフトをしっかりと組むので、そのシフトに入らない方に対応いただく予定です。そういう方の中でも、専門職であれば尚良いのかなと思います。

【株式会社メディアテラス（以下、メディアテラス）】
（プレゼンテーション）

テンミリオンハウスそ〜らの家の運営計画についてご説明いたします。

まず、私達について説明させていただきますが、2003年10月に設立し、吉祥寺北町にある武蔵野市立第四小学校前の西武バスのバス停前の食料品店が所在地となります。商工会議所に所属し、サービス事業部会にも参加しています。また、八幡通り協栄会に商店会として所属しています。武蔵野古物商組合にも所属しています。

運営サービスの特色として、戸外へ出かけるイベントを実施していきたいと考えています。都内の美術館や博物館、植物園、動物園、水族館、天文台のほか、写真の撮影会や市内産の野菜の買い物会などを実施したいと思います。メディアテラスが運営しているアートシーンというウェブサイトがあり、美術館の情報を多く掲載しており、ご好評いただいております。

また、健康増進プログラムとして、温泉日帰りイベントの実施やヨガ、ピラティス、太極拳、ストレッチ講座、毎朝行うデンマーク体操を実施したいと考えています。幸い、そ〜らの家の前には防災広場がありますので、ここを活用した軽運動のサークル活動を実施できればと考えています。また、陸上の審判やサッカーの審判の資格を持った者がおりますので、武蔵野市や三鷹市、調布市で開催されている様々な大会と一緒に観に行く観戦イベントの実施も考えています。

今まで私達が主催等をしてきたミニコンサートや合唱トレーニングでの経験がありますので、そういった芸術文化の催しも実施したいと考えています。また、1本針のかぎ編みを含む編み物や洋裁教室なども実施したいと考えています。更に、利用者の要望があれば、ちぎり絵やデッサン、簡単な語学講座、パン焼き体験会、確定申告の相談会なども実施したいと思います。

特に、メディアテラスの代表が食料品店出身ということから、生ごみのたい肥化にはずっと取り組んでおり、たい肥化にはかなりのノウハウを持っていますので、そ〜らの家から出た青物の野菜についてはたい肥にして活用するというを必ず実施したいと考えています。

デンマーク体操について詳しく説明いたしますが、吉祥寺東町の近くに杉並区の善福寺公園があり、ここで毎朝6時前からデンマーク体操が行なわれています。メディアテラスの代表は、介護ヘルパーとして介護の仕事もやっているため、利用者をデンマーク体操にお連れしたところ、認知症の進みが軽減される効果を実体験として得たことから、体を動かしたプログラムを積極的に活用することができれば、大変効果的なプログラムとして利用できるのではないかと

と以前から考えていました。

今までそ~らの家になかった取組みとして実施したいことは、私達自身がシステムやインターネットと言ったウェブの仕事を専門的に行ってきたことから、高齢者の方々はパソコンやスマートフォンを使った情報収集や活用法について、それを知るチャンスがない・慣れることができないという方が大勢いらっしゃると思われましたので、毎日そ~らの家に来ていただく方にはパソコンやスマートフォンを自由に使えるよう準備し、必要に応じて使い方を教えるインターネットカフェのような運用を考えています。インターネットの世界は非常に問題のある運営者・サービス提供者がおります。また、スマートフォンですと個人情報やお財布携帯もあり、資産の情報が全部入っている大変貴重な端末が無造作に使われていることから被害が出てきていますので、インターネットやスマートフォンは決して怖いものではなく、安全に使えるものであるということ、そ~らの家に来ていただければ知ることができ、何度でも楽しんでいただけるようなインターネットのレクチャーを実施したいと思います。パソコンは7、8台を用意し、今まで悪質業者の被害等を受けた方に対して、どのように対応していけばよいのかということステップを追って説明していくことができれば、社会的にも価値の高いサービスを提供できるのではないかと考えています。

(質疑応答)

【委員】 2点伺います。

- ① 戸外に出かけるイベントをお考えのようですが、テンミリオンハウスはその場所で開所し、活動することが基本ですので、外出する場合もオープンしていることが必要になりますが、その点についての確認はいかがでしょうか。
- ② 建物利用計画図では、中央のテーブルにパソコンを8台並べておりますが、基本的にこのような設定でオープンするのでしょうか。

【メディアテラス】 戸外へ行くことについて、毎週のように出かけることは無理ですので、考えていません。季節に沿った外出イベントを考えています。また、その際にそ~らの家を閉めるのではなく、行きたい方のみで外出することを考えています。

パソコンの台数は最大で7、8台並ぶと思いますが、通常は3、4台並べておくような形になるかと思えます。ノートパソコンを用意しておけば、インターネットの設備としても十分に問題ないと思っています。

【委員】 3点お伺いします。

- ① 入浴サービスを実施するようですが、スタッフの人数が少ない中で実施が可能なのかという点についてお伺いしたいと思います。
- ② 戸外に出てゲートボール等を行うということですが、外に出るということであれば、そこに対応するスタッフは出ずっぱりになってしまうのではないかと思います。そうしますと、本業のお仕事との兼務がどのくらい可能なのかという点についてお伺いしたいと思います。
- ③ 利用者の利用料は記載されていませんが、利用料収入なしでの運営が可能とお考えでしょうか。

【メディアテラス】 スタッフについては、もし採択されたならば、今回提出したメンバー以上の人数を集めて実施していくことになるだろうと思います。

入浴サービスについては、せっかく立派なお風呂がありますので、自宅のお風呂が壊れてしまった等のリクエストや要望があった時に実施することを考えており、それ以外の日常的な中では実施することを考えていません。

【委員】 急にそのような要望があった時、スタッフの数の面から言って、手が足りなくなるのではないのでしょうか。

【メディアテラス】 当日あるいは前日にリクエストをいただき、対応ができるかと言われますとそれは難しいと思います。例えば4日前など、期日を区切って対応することができるようにしたいと思います。三鷹の社会福祉協議会と関係があることや介護ヘルパーとして働いていますので、人的な繋がりはあることから、スタッフを探すことはそれほど苦労しないと思います。

利用料についてですが、来所される方は概ね昼食を食べられるだろうと考えており、また、ほとんどの方が喫茶の利用をするだろうと考えているので、問題ないと思います。より多くの方に利用していただく方が良く考えているため、ただ立ち寄った方に関しては、利用料を取らないようにします。

【委員】 2点お伺いします。

- ① 今まで皆さんが活動されてきたものをベースにして、インターネットの活用などを提案されていますが、一方で現在そ～らの家で行われている取組みについての継続性をどのようにお考えかお伺いしたいと思います。
- ② 団体の構成員について、市内在住者は1名で後は市外在住の方ですが、これからスタッフを集める場合、市内の方を集めるのでしょうか。また、どういった形で集めるのかお伺いしたいと思います。

【メディアテラス】 インターネットやパソコン、スマートフォンは必ず使わ

なければいけないというのではなく、それにアレルギーがある方や使いたくないという方がいた場合に無理強いをするつもりはありません。今までの声楽や折り紙等のサービスへの要望が高いということであれば、そのようなプログラムを継続していかないとそ~らの家の役割を果たせないのです、実施していきたいと思います。私達としては、パソコンに関するサービスもできる、それをお望みになる方がおりましたらすぐに用意できるといったことを考えています。

スタッフを募集する際は、武蔵野市に限定するのは難しいと考えていますが、武蔵野市の方に来ていただくことが一番ではないかと思っています。

【委員】 3点お伺いします。

- ① 基本事業に関する説明がありませんでしたので、お昼の提供方法も含めた基本事業について、ご説明いただきたいと思います。
- ② 地域ニーズの中で高齢者の単身者が急増していることについて書かれていますが、この単身の高齢者の方達をそ~らの家にどのように取り込んでいくことを考えているのでしょうか。
- ③ スタッフを集めるということでしたが、この地域と皆さん方の繋がり、人間関係から、どのような方をボランティアとしてお願いするのか、その辺りの考え方をお伺いしたいと思います。

【メディアテラス】 基本事業について説明いたしますが、午前 10 時から午後 4 時を利用時間と考え、スタッフは午前 9 時から午後 5 時まで準備も含め勤務することになります。お昼は正午頃から午後 1 時の間にご提供したいと考えており、必ず前日の午後 3 時までに予約をいただくようにし、人数を確定したいと思います。当日来て注文されますと問題になりますので、予約を承って行うようにしたいと思います。

お一人暮らしの高齢者について、テンミリオンハウスに来所される方は自己通所可能な方を対象にすることを前提としていますので、単身者が毎日通われて人生をより楽しく過ごせるよう、そのきっかけとして囲碁や将棋等で来ていただいております。利用者が必要と要望を細かく取り入れてプログラムを組んでいきたいと思っています。

ボランティアについて、吉祥寺南町・東町を中心に多くの方にお集まりいただくことが望ましいと思いますが、それが難しいということであれば、市内全域だけではなく、杉並区の西部や練馬区の南部などからも受け入れたいと思います。

【委員】 お昼は自分達で作る予定でしょうか。

【メディアテラス】 はい。自分達で作ります。

【委員】 利用料について、高齢者の方はプログラムの場合、午前だけのプログラムや午後だけのプログラムに参加されることが多いので、そういう方は昼食を食べられないことがほとんどです。例えば、午前中だけの利用となりますと、喫茶の 100 円とおやつ代の 300 円の合計 400 円をいただくということでしょうか。

【メディアテラス】 喫茶の利用をされますと、その料金をいただくことになります。

【委員】 喫茶の利用はなく、プログラムだけを利用した方は、お金を払わなくても良いということでしょうか。

【メディアテラス】 プログラムの内容によります。そ~らの家に来ていただき、喫茶を利用され、そのままプログラムを利用された方からプログラムの利用料をいただくことはありませんが、材料費が必要なプログラムについては予め設定してご負担いただくこととなります。インターネットの利用や将棋の利用等については、利用料を取ることはしません。

【委員】 パソコンが常に中央テーブルに並んでいるということは、プログラムを実施する際はどのような形で行うのでしょうか。

【メディアテラス】 パソコンは折り畳み可能なノートパソコンを置くことを想定しておりますので、畳んでしまうことが可能です。常時、組み立ててテーブルの上に置いておくわけではないので、利用がない時には、1 台も置かず他の利用ができる形にすることは可能です。

【委員】 日々のスタッフ体制について、常勤 2 名、非常勤 2 名で常時 4 名体制ということですが、常勤はこの名簿にあるとおり 2 名だけということでしょうか。

【メディアテラス】 今の段階で決まっているのはその 2 名ですが、それだけでは運営できませんので、採択されてから 4 月の運営開始までの時間で、少なくとも核になるメンバーを 7、8 名揃えなくてはいけないと考えています。常勤は更に 2 名は増やしたいと考えています。

【委員】 常勤で働く方の賃金も時給 850 円ということですが、フルタイムで働いても月 12 万円くらいになるのではないかと思います。その場合、若い方が常勤として入って生計を立てていくことは可能なのでしょうか。それとも、別の仕事をしながらそ~らの家の運営をしていくということでしょうか。

【メディアテラス】 私達は各々仕事を持っていますので、テンミリオンハウ

スの運営だけで生活が成り立つとは考えていません。また、私達が時給 1,000 円や 1,500 円として実施していくかと言いますと、テンミリオンハウスの性質から無理がありますので、現段階でその賃金を上げることは考えていません。

【委員】 施設利用対象者を 65 歳以上の市内在住者とされているほか、隣接市区の方も歓迎と書かれていますが、このことについてはどのようにお考えでしょうか。

【メディアテラス】 事前にブリーフィングを受けた中で、そ~らの家がある場所は杉並区や練馬区が近く、市外の方が来所されることもあると伺いました。そのような時、市内在住者ではないので利用できませんとお断りせず、可能な限り受け入れるという消極的な意味で載せています。

【委員】 団体名が株式会社メディアテラスとなっており、提出いただいた定款の目的の欄にはこのような福祉サービスを実施することが書かれていませんが、採択された場合この定款を見直す予定なのか、それとも現在の定款の中で行える範囲とお考えなのか、あくまでも会社とは別のものとして事業を実施する予定なのか、その辺りについてお伺いしたいと思います。

【メディアテラス】 定款については、変更する方が行政上も望ましいということでしたら対応はできますが、現状それがなければできないとは思っていません。また、私達がそ~らの家を土・日・祝日をお休みにした理由として、土・日・祝日は自分達の事業が必ずあることから、そ~らの家の運営を平日のみとしました。

【委員】 会社の事業として行うということによろしいでしょうか。

【メディアテラス】 はい。

【委員】 今の件に関連して、定款にない事業の実施ということですが、企業の社会貢献的な事業として捉え、その観点から時間給も発生して行っているのではないかと捉えていましたが、会社の業務となると地域・社会貢献の事業の一環として位置づけをはっきりされた方が分かりやすいと思うのですがいかがでしょうか。

【メディアテラス】 本来、社会福祉法人や NPO 法人といった組織を作って対応することができれば一番良かったとは思いますが、私達は新たに組織することまで手が回りませんでした。株式会社として実施することは本来であれば望ましくないかもしれませんが、地域社会や社会的に意味のある事業を運営者として手掛けることができれば、会社としても望ましく、それに賛同して協力したいと申し出てくれたメンバーからの後押しも受けましたので、株式会社と

して今回公募に参加することとなりました。

【特定非営利活動法人 LIFE NETWORK JAPAN（以下、LNJ）】

（プレゼンテーション）

私達は現在三鷹市役所の食堂でカフェ事業を通じて、地域の高齢者の方々の力を活かした事業を行っています。

私達が提案したいことは2点あります。1点目は、高齢者の活躍の場をつくり、地域資源として活躍いただくことを考えています。2点目は、そ~らの家を地域が繋がる拠点としてつくっていかうと考えています。

1点目の「高齢者の活躍の場」について説明しますと、地域住民参加型のカフェ事業を通じ、高齢者の潜在能力を資源へと転換することを目的としています。かつての3世代家族を想像してください。おじいさん、おばあさんは朝早く起きて、朝食をつくり家族へ提供し、それを受けて子や孫はおじいさん、おばあさんへ感謝をしていました。感謝されることで、おじいさん、おばあさんは家庭から生きがいや楽しみを得ていました。日本のどの家庭にも、おじいさん、おばあさんが活躍できる場があった時代だと思います。しかし、現在地域には高齢者世帯や独居高齢者が増えている状況です。よって、家庭の中で高齢者が活躍できる場がなくなってきていると言え、高齢者の方々の生きがいや楽しみが失われていくこととなります。

私達は、家庭が担っていた役割をそ~らの家に持たせようと考え、高齢者の皆さまが家庭の中で家族に対して行っていたものを、地域住民へと還元していくスタイルを取りたいと考えています。高齢者の方々が、自分のできる範囲でそ~らの家に来て台所仕事やお手伝いをしていただき、それが食事やお弁当という形になり、地域住民へ還元され、地域住民が高齢者に感謝することで高齢者の生きがい・楽しみに繋がっていく、そういったサイクルの仕組みづくりを事業の根本として考えています。

働くことについては、現在は面接等をして一定の能力がなければ社会の役に立てないという契約社会になってしまっているため、高齢者の方々が自分のできる範囲で働ける場所が地域の中からなくなってきています。現役世代と今まで家庭の中で活躍していた高齢者の方々が一緒になって事業を行っていくことが、私達の目指す事業の根本となっております。

具体的には、そ~らの家の利用者、親子連れの皆さま、近隣住民、市内企業

の皆さまに食事やお弁当を提供していこうと考えております。施設内での食堂事業では、高齢者や親子連れの皆さま、地域住民の皆さまを対象に、お弁当配達事業では、単身高齢者や市内企業の皆さまを対象に、地域のおばあさんが作ったお弁当を届けたいと考えています。

2点目の「地域が繋がる拠点」について説明いたします。地域には、高齢者の方はもちろんのこと、高齢者以外の様々な方が多く生活しています。そのような地域住民と一緒に参加してイベントや各種講座を開催していくことを考えています。イベントや講座を通して、緩やかに地域が繋がることを目的としています。具体的には、季節ごとに盆踊りやクリスマス会の実施、定期的にはフリーマーケットや朝市、夕食会の実施を考えています。また、現在そ～らの家で実施されている書道や水彩画などのプログラムも継続して実施したいと思えます。これらのイベント・講座を私達が提供するのではなく、地域住民の方が講師やイベントの主催者となることで、地域の方と一緒に作り上げていきたいと考えています。私達スタッフはコーディネーターとして、そ～らの家のマネジメントを通じ、地域住民をコーディネートしていくことを考えています。一緒にやって行くことで主催者側の繋がりが生まれ、また、イベント等に参加する側の繋がりが生まれます。そういった地域共助が生まれることを目的としています。

2つの提案の事業効果として、元気な高齢者つくことで高齢者の活躍の場ができ、高齢者と地域が繋がることによって、地域住民と高齢者が繋がっていく効果が表れると考えています。

(質疑応答)

【委員】 3点伺います。

- ① 少し見方を変えれば、テンミリオンハウスを利用してレストラン事業で儲けようとしているのではないかと捉えられますが、その辺りはいかがでしょうか。
- ② 住民参加型のカフェ事業ということで、高齢者を資源として捉えるのであれば、ボランティアではなく、事業に関わる点ではある程度の謝礼を検討された方が良いのではないかと思います。いかがでしょうか。
- ③ ボランティアは50人くらいを想定しているのではないかと思います。地域の高齢者を資源にするという点では少ないのではないのでしょうか。

【LNJ】 儲けを目指していないと言えば、嘘になります。生活するだけのお

金は必要です。私達が高齢者の方に対して一番行いたいことは、高齢者の潜在能力を引き出し、高齢者の方に元気になっていただくことです。デイサービスに通うのではなく、そ~らの家で働き、一緒になって地域を盛り上げていきたいと思います。そこには若い力が必要であり、若い力を得るにはそこで生活でいることが必要であり、新たな希望がなくてはならないと考えておりますので、その要素は必要と考えています。

ボランティアについて説明いたしますが、現在行っているカフェ事業「C-Café」では、高齢者のボランティアに対して食費・交通費の補助として1時間 200 円を支払い、有償ボランティアとして活躍いただいております。休日・夜間については料金体系が変化するので、多い方では月 3 万円ほどの賃金を得ている方がおります。そ~らの家では、このような形を取ることは難しいので、ボランティアとして来ていただいた方に 500 円を交通費として支払おうと考えています。

ボランティア人数についてですが、これは私達も課題として捉えています。現在「C-Café」では高齢者・障害者・若者自立支援の方も含め 40 名弱のボランティアの方に関わっていただき、イベントのお手伝いをいただいている方も含めると 50 名ほどなので、そこを基準に考えました。規模として小さいと言うご指摘はその通りかもしれませんが、そ~らの家での活動だけではなく、地域の中でこのような活動が増えて行けば、全体的に大きな利益となるのではないかと思います。

【委員】 今回事業提案された NPO 法人 LIFE NETWORK JAPAN と「C-Café」の関係性についてお伺いします。

【LNJ】 現在は任意団体の「C-Café プロジェクト」という団体ですが、今後そ~らの家を運営するにあたり、1 つの団体で複数の事業を展開するには、法人格を取得した方が良いと判断し、現在申請中です。

【委員】 関係性がはっきりしないので、「C-Café」として提案された方が良かったと思います。まだ法人として確定していない段階なので、「C-Café プロジェクト」という現在の団体名で提案されるべきだったと思います。

【委員】 2 点伺います。

- ① 食という取組みを通じて、地域づくりを行うということですが、想定されているところが多くは女性ではないかと感じました。そのような場合、テンミリオンハウス全体を見ても男性利用者が多くない中、男性を社会資源としてどのように活用しようとお考えでしょうか。

② 「C-Café」という空間と、「居場所」という概念が強いテンミリオンハウスの空間には違いがあると思いますが、テンミリオンハウスの特性を活かした事業としてはどのようなことをお考えでしょうか。

【LNJ】 現在「C-Café」でも男性は1人の状況です。食を通じた展開を現在行っているため女性が目立つ働きとなっていますが、そ~らの家の運営に関してはここにこだわっていません。地域の中で必要とされる取組みを、現役世代と一緒にやっていくことを考えています。よって、講師やイベント主催者となって男性高齢者にも関わっていただきたいと思います。しかし、男性はプライドが高いので、なかなか関わっていただけない状況にあるのは事実です。

居場所づくりという観点から説明しますと、「C-Café」は助成金をいただいている事業ではなく、ランニングコストなどの事業費を自分達で稼がなくてはならなかったため、食堂事業を重視して行ってきましたが、私達の考え方としては地域での高齢者の居場所づくりをテンミリオンハウスという事業の中で行っていければという思いの中公募に参加したので、やりたかった事業が初めてここで実現されるのではないかという気持ちでおります。未経験な部分は多いですが、高齢者の方と共に働くという点では自信を持っているので、関係性を見ていくという自信はあります。

【委員】 三鷹市役所で食堂事業を展開しているというお話でしたが、提出いただいた書類では公会堂で行っていると書かれています。公会堂は建て替えの予定があったと思いますが、スタッフが4名で、三鷹市での事業も行うとなると4名で足りるのでしょうか。もしくは、建て替えがあるため、テンミリオンハウス事業の公募に参加されたのでしょうか。また、建て替えが終わった後、三鷹市の事業はどうなるのでしょうか。

【LNJ】 事業提案書に書かれている4名は、テンミリオンハウスに関わるための4名を最低限書かせていただきました。三鷹市の公会堂の建て替えが今年の12月1日から平成25年1月31日までかかりますので、代表と副代表は、その期間は重点的にそ~らの家での活動を考えております。もちろん事業を進めていく上でその4名ではとても難しいと思いますので、今繋がっている人材も多数おりますので、その中からテンミリオンハウスと「C-Café」に分けた形で職員を配置し、安定した事業展開の実施を考えています。

【委員】 NPO法人としてはこれからですが、「C-Caféプロジェクト」としては他にたくさんのメンバーがいるということでしょうか。

【LNJ】 事業提案書にはテンミリオンハウスに関わるスタッフのみ記載とい

うことでしたので、そこに記しておりませんが、他にもメンバーがいます。

【委員】 事業収入が 850 万円となっており、昼食代やお弁当代と考えているようですが、この原価についてお示しいただきたいと思います。

【LNJ】 飲食業の食材費は 3 割から 4 割の間に抑えるのが定説なので、それを踏まえて設定しました。

【委員】 食材費 200 万円で、昼食とお弁当を作ることを考えているのでしょうか。

【LNJ】 はい。全て合算計算をして、そこに食材費として記載しています。

【委員】 昼食やお弁当を作る方はボランティアの方々ということでしょうか。

【LNJ】 はい。食費・交通費の補助をボランティアの方に支給する予定です。

（２） テンミリオンハウス関三倶楽部応募団体ヒアリング

【特定非営利活動法人パーソナル・ケア吉祥寺（以下、パーソナル）】

（プレゼンテーション）

これから、関三倶楽部へご案内いたします。

関三倶楽部は関前三丁目にあります。グッドネーミングです。最初は、囲碁クラブと間違えられました。2 階は関前南小学校の学童クラブです。その賑やかなことと言ったら、午後は震度 4 くらいです。

関三倶楽部のショートステイ、デイサービスの延べ利用者人数は、この 10 年間でうなぎ上りになるかと思いきや、バラバラでした。一時利用者数が下がった時期があります。これは、ショートステイを受け入れれば受け入れるほど赤字が膨らんだので、少し受け入れ人数を制限した時期がありました。しかし、運営団体が NPO 法人であることから、地域貢献ということで赤字を補填し、ここ数年は調整しておりません。

毎年恒例のイベントとしてクリスマス会を実施しており、コンサートとお食事の会を実施しています。最後にサンタクロースが現れるのも、水戸黄門のような定番となっています。

年に 2、3 回地域の方々と介護の勉強をする「Let's Try」を実施しています。基本は実際に行って、経験してみることだと思います。

これから、紙芝居をして関三倶楽部の状況をご説明いたします。

紙芝居「関三倶楽部へようこそ」。

私達の関三倶楽部は他のテンミリオンハウスと違い、ご利用くださる皆さまが重い認知症の方、精神障害の方が多いため、普通のデイサービスのような趣味活動はできません。関三倶楽部の活動の中心は、食事、排泄、入浴といったものです。あくまでも生活の場としてお使いいただいております。よって、その場面を写真でお見せすることはできません。関三倶楽部へ来られる経緯も様々です。心労が重なりヘトヘトのご家族や、にっちもさっちも行かなくなって関三倶楽部へ相談に来られるケアマネジャーもいます。今回は一例ですが、紙芝居を使ってご説明したいと思います。

はじめに、M子さんは昭和12年生まれ。10年以上前にうつ病と診断され、精神病院に入院していましたが、息子さんが「このままでは治らない。薬で酷くなっていくのではないか。」と平成18年秋に自宅に戻ってこられました。ご長男と同居、週末はご次男が対応という形を取っています。

具体的な症状は、際限ない言葉の繰り返し、何か食べて飲んでいないと落ち着かない、ご自身の頭を叩くなどの自傷行為、手に持っているカップなどを大きな音を立ててテーブルに置き、中のものをまき散らす、振り回すなど、精神症状が良くなったかと思うと、また他の症状が出だすといった具合で、施設では周りの利用者が不穏になるという理由でなかなか受け入れてもらえません。

「わーっ！お母さん！何しているんだ！」

『何か食べていい？何か食べていい？落ち着かない。(ベリベリベリッ)』

とうとう冷蔵庫の鍵を壊してしまいました。冷蔵庫やお菓子の入っている戸棚には鍵をかけています。鍵をかけておいても引きちぎり、細い隙間から手を突っ込み怪我をします。思い余って息子さんはケアマネジャーに相談します。

「夜は寝かせてもらえないし、このままでは仕事にも支障をきたします。どうしたら良いのでしょうか。同居することを決めたのは自分ですが、このままではやっていけない。」

ケアマネジャーもデイサービスやショートステイができそうな施設などをあたってみましたが、良い返事はもらえません。一晩泊まると、他の利用者の迷惑になるからと帰されてしまいます。

『そうだ、良い考えがある！関三倶楽部に相談してみよう！いかがでしょう？』

「もう何でも良いです。可能性のあることはやってみたいと思います。」

『一度ご本人と一緒においでください。』という関三倶楽部の答えに、息子さ

んはワラをも掴む思いで関三倶楽部を訪れます。これが駄目だったら・・・。

「こんにちは。」

『ようこそいらっしゃいました。お待ちしております。』

スタッフの明るい笑顔と声に緊張の糸も緩みます。責任者にこれまでの経緯などを話して、状況を理解してもらいました。

『できるかどうか確信はありませんが、やってみましょう。』

「ありがとうございます。宜しくお願いいたします。」

「ここは何なの？パン食べていい？落ち着かない。トランプしたい。」

『M子さん、テーブルでコーヒーを飲みましょうよ。』

「トイレ行きたい！」

『じゃあ一緒に行きましょう。』

これまでの話を理解してもらえたことと、受け入れてもらえそうな返事に息子さんは安心して、来た時と顔つきが違います。M子さんにも関三倶楽部の雰囲気拒否はありません。そして、週2回のデイサービス、時折ショートステイをすることになりました。M子さんの繰り返しに、スタッフもイライラすることがあります。他の利用者が目を丸くする場面もあります。でも、何とか共存しています。

ほぼ一対一の対応のせいでしょうか、Mさんも関三倶楽部では比較的落ち着いて過ごしています。

(ガシャーン！) カップを力いっぱい置いてしまいました。

『M子さんやらないでね。』

「はい。」

(また、ガシャーン！)

『やっちゃ駄目よ。』

「またやっちゃった。パン食べちゃ駄目？」

『さっき食べたばかりでしょ？トランプM子さんの番よ。』

「はい。」

この繰り返しです。息子さんがお迎えに来られると、正直ホッとします。無事にお帰しできたことと、繰り返しから解放される安堵感があります。

『M子さん、またね。』

「はい。」

「関三倶楽部に行くのは全然嫌がないんですよ。不思議ですね。ちゃんと

対応してくれるからでしょうか？」

息子さんの嬉しそうな顔と、M子さんの満足そうな顔に疲れもふっ飛びます。これで紙芝居を終わります。

今までの反省とこれからの関三倶楽部について説明いたします。

私達の住んでいる武蔵野市も高齢化率がどんどん上がり、平成23年には20%を超えました。それにつれ、認知症になる方も増えています。85歳以上はほぼ8割から9割の方が、何らかの認知症の症状が出ています。2050年には日本人の28人に1人が認知症になると言われています。

一生懸命の毎日から、もっと広い視野で、関三倶楽部のこの10年間はただ利用者が無事にお帰りいただくことを考えて日々を過ごしてきました。お陰様で、武蔵野市民の皆さまに喜ばれ、役立つ関三倶楽部として活動できたと自負しています。

この節目の時にあたり、テンミリオンハウスの一つの使命でもある地域との関わりはこれで良かったのかと疑問が頭を過りました。確かに、地域の個々の方とは繋がりを持ってきましたが、地域の福祉関係との連携も少なく、広い視野での地域福祉の貢献を見落としていたのではないかと反省します。

この反省を踏まえ、今後の5年で実現したいこととして、近隣在住の方々が高齢者福祉に求めていることはどういうことかということをしっかり把握し、提供したいと考え、そのために関三倶楽部がまずやるべきこととして、「地域のための駆け込み介護相談」を考えています。「どうすればこんなサービスが受けられるのか。」「介護してこんなことに困っている。」「愚痴だけでも聞いてほしい。」「突然おむつになってしまったけど、どうすれば良いのか。」などと近所の方が駆け込み、相談できる場所となること、また、必要あれば市役所や在宅介護支援センターに繋いでいきたいと考えています。

(質疑応答)

【委員】 プレゼンテーションの中では、今後「駆け込み介護相談」を考えていらっしゃるようですが、事業提案書の中にはこのことについて記載がありませんでした。今回のプレゼンテーション内容が、今後の実施したい内容と捉えてよろしいでしょうか。

【パーソナル】 今回この節目にあたって、事業提案書やプレゼンテーションの内容を考えていく上で、私達は本当に地域貢献していたのだろうかという思

いが出てきました。普段関三倶楽部で利用者を見ているとまとまった時間はないのですが、普段のやり取りの中から、利用者を預けに来るご家族の方からすると、今の状況を理解してもらえる人が少ないということが分かりました。関三倶楽部のスタッフはその人の1日を見ているので、話をしても理解してもらえることがご家族にとってはとても大きなことなのです。また、周りの特別養護老人ホームやショートステイの施設がどのようなものなのか、どのように利用できるのか、普通の方には分からないことなのです。そういった内容の相談があった時に、ご説明できるかなと考えています。

【委員】 地域における介護体制の底上げ、地域での安心感を目指しているようですが、今のスタッフの体制でその実現を考えているのでしょうか。また、人件費が平成23年度の事業計画と比べて若干低めに設定されています。このことについてご説明いただきたいと思います。

【パーソナル】 この資金計画では若干不足する部分もあるかもしれません。基本的には現在の体制と変わらずに実施していくことを考えています。

【委員】 関三倶楽部の取組みは、他のテンミリオンハウスと違うことは間違いありませんが、この取組みをテンミリオンハウスで行う必要性について、どのようにお考えでしょうか。

【パーソナル】 地域の高齢者や介護を抱えているご家族の方が入りやすい場所として、関三倶楽部でこの事業をやりたいと思いました。在宅介護支援センターや施設となりますと、限界の状態にならないと入っていけないと思いますので、それよりはもう少し入りやすい施設が地域にあれば入って来てくださると思います。よって、関三倶楽部でこの事業を行いたいと思い、提案しました。

【委員】 平成19年に赤字となり、パーソナル・ケアで補填したということがありました。法人からの補填については最近どのような状況でしょうか。

【パーソナル】 少々負担しております。

【委員】 今回提案した中での資金計画はいかがでしょうか。

【パーソナル】 今回の資金計画は、1,000万円の中で行うものとして書かなければならないと認識していたので、人件費を厳しくせざるを得なかったのですが、やはり人件費で不足する可能性があるため、その分は法人で負担しなくてはならないと考えています。と言いますのも、私達はNPO法人として他に地域貢献ができていない状況でしたので、少なくともこの関三倶楽部の運営でそれができれば良いと考えているからです。

【委員長】 事業提案書の5年間の目標には、「武蔵野市民に広く周知する方法

を検討する」と書かれていますが、具体的にどのようなことをお考えでしょうか。

【パーソナル】 現段階で考えていることは1つだけですが、ケアマネジャーの地区別ケース検討会を利用して、テンミリオンハウスの見学会を実施したいと考えています。一般の方は、ご家族の中で介護が必要な状態にならないと興味がわからないので、一般の方に知っていただくことは難しいと思います。よって、介護が必要な方の所へ直接行っているケアマネジャーから、テンミリオンハウス関三倶楽部のことを教えていただいた方がより早いかなと思います。

（３） 推薦団体決定討議

【委員長】 まず、そ～らの家の採点結果について協議したいと思います。集計結果として、グループ萌黄 755 点、株式会社メディアテラス 465 点、特定非営利活動法人 LIFE NETWORK JAPAN 481 点となりました。この結果について、各委員より意見をお願いします。

【委員】 メディアテラスに関しては、各自の仕事の合間に運営するという印象が強かったと思います。また、内容の中には地域貢献というものはそれほどなかったと思います。LIFE NETWORK JAPAN については、高齢者がお金を稼いで一人で暮らせるというのは、現実的に難しいと思いました。また、自分達の生活するお金も稼ぎたいという考え方が、テンミリオンハウスにはそぐわないと感じました。

【委員】 安定性や事業推進力から考えるとグループ萌黄が優先順位 1 位の団体だと思います。LIFE NETWORK JAPAN については、アイデアとしては面白い提案内容だったと思いますが、もう少し的を射たプレゼンテーション内容、質疑応答の内容であれば良かったと思います。

【委員】 安定性という意味では、グループ萌黄が優先順位 1 位の団体で間違いないと思います。他の団体については、基本事業について計画性が今一つであったため、新しい事業内容に関してもっと夢を語るぐらいの気持ちがあっただけ良かったと思います。グループ萌黄のプレゼンテーション内容については、現状の報告が大部分を占めており、最後に少し今後についての話があったただけなので、少し残念に思いました。

【委員】 グループ萌黄について、「見守り」ばかりを重視するのはいかがなものかと思いますが、安定性を見ると優先順位としては 1 位の団体になるかと思

います。

【委員】 グループ萌黄は安定性もあり、地域に根付いているので優先順位1位の団体としました。メディアテラスは、自分達の事業の延長といった考え方でしたので、テンミリオンハウスの理念とは合っていないと思いました。LIFE NETWORK JAPANの発想は非常に面白かったのですが、高齢者をボランティアで使うことなど、自分の給料を出すためにかなり無理をしている感じがしました。

【委員】 LIFE NETWORK JAPANについては、評価は低かったものの非常に興味を持ちました。ボランティアについて、無償ボランティアにこだわっているように感じましたが、最終的には有償ボランティアとして考えているとのことだったため、最初からそのような形で話をしていればもっと分かりやすかったと思います。発想としては面白い内容でした。

【委員長】 メディアテラスとLIFE NETWORK JAPANは便宜的にそ~らの家を利用しようという感じがしました。LIFE NETWORK JAPANについては、三鷹の公会堂改修に伴って今回の公募に参加したというイメージが強く、内容としてもそ~らの家を拠点にしなくてもできる事業ではないかと思いました。グループ萌黄については、これまで週5日開所だったところを週6日開所にしたことが非常に評価できると思います。一方、昨年度が1日平均約18人であるのに対し、今回の提案でそれを10人にするというのは、あの広い場所でもったいない内容だと感じました。このことは、最終的に確定した場合、行政の方でしっかり支援していただきたいと思っています。

【委員】 グループ萌黄について最も評価したかったことは、若い人がスタッフに入ってきたということです。1つのあり方として、若いグループに変えるという方法もあるかと思いますが、自分達が若返っていくということも良いかと思いました。

【委員長】 それでは、これまでの検討結果から、集計結果通りの順位で市長へ推薦するという事によろしいでしょうか。

→ 全委員了承。

それでは、そのように確定させていただきます。

【委員長】 続いて、関三倶楽部について協議したいと思います。集計結果として、特定非営利活動法人パーソナル・ケア吉祥寺773点となりました。この結果について、各委員より意見をお願いします。

【委員】 緊急ショートステイ事業やデイサービス事業で、より広報に力を入

れていきたいということでしたが、現時点で手一杯ではないかという印象を受けました。また、人件費の問題も出てくるのではないかと思います。しかし、現時点では緊急ショートステイを実施しているところはどこにもない状況なので、専門性は評価できます。もっと発展できる下地があると、ケアマネジャーに声かけをする際の安心感に繋がるのではないかと思います。

【委員】 パーソナル・ケアの提案内容については、非常に納得できる内容でした。一方で人件費の問題があるかと思いますが、これだけの働きをしているのに対し、労賃が安いのではないかと思います。これはテンミリオンハウスという枠の中で事業を実施しているため制限がかかるのかなと感じました。テンミリオンハウスの中でこの事業を展開することを否定はしませんが、今後はもう少し別の仕掛けが必要かと思います。

【委員】 収支のことで赤字となる点については気になるところです。今年度の計画と比べて、今回の提案内容で人件費が減っていましたが、それは恐らく役員報酬が減ったことによるものだと捉えています。つまり、NPO 法人全体の中でやり取りできる問題だと解釈できます。しかし、将来的に緊急ショートステイ事業を実施するテンミリオンハウスをどう捉えるかということは、考えなくてはならないと思います。

【委員長】 確かに、常勤職員の賞与はパーソナル・ケアで負担するとされています。よって、法人としてトータル的にカバーできる範囲という考えなのだろうと思います。

【委員】 運営に関しては、問題もなく、しっかり運営できるものと評価しています。緊急ショートステイに対するニーズがもっとあるのであれば、市としても何か展開する必要があると思いますので、緊急ショートステイの必要性について、もっと検討していただければと思います。

【委員】 緊急ショートステイ事業に対する評価としては、金額的に少し低いと感じています。1,000 万円という上限がありますが、例えば別途緊急ショートステイ経費として、1,000 万円を超えるような制度設計も考えられます。また、利用者が増えることで収入も増えます。そのような考え方も必要かと思います。

【委員長】 介護保険制度がスタートした段階では、緊急ショートステイは非常に使いづらいサービスでした。その時期に関三倶楽部で実施しましたので、非常にニーズは高かったと認識しています。しかし、今のショートステイはかなり使いやすいサービスとなっています。よって、性格は変わってくると思

ます。今回の提案に「気楽に来ていただけるような受け皿にしたい」とありましたように、今後はそのように変わっていくのではないかと思います。そう考えますと、やはりテンミリオンハウスでないと実現性はないのではないかと思います。テンミリオンハウスは助成金がありますが、全て介護報酬の中で行おうとしますと、利用料金はもっと高く設定されることになると思います。よって、テンミリオンハウスでこの事業を実施する意味はあると思います。各委員からご指摘があった通り、改善していく点はありますが、総じて良い運営をしていると思います。

【委員長】 それでは、協議した結果、特に異論がなければ特定非営利活動法人パーソナル・ケア吉祥寺を関三倶楽部の運営団体として、市長に推薦することによろしいでしょうか。

→ 全委員了承。

それでは、その通り確定することとし、平成 23 年度第 3 回テンミリオンハウス事業採択・評価委員会を終了します。

4 閉会

以上